

ヨシ、セイタカアワダチソウ刈跡地で
無除草・不耕起栽培を行ったスーダングラスの生産性

○加藤直樹・佐藤健次・吉川好文・小荒井晃・原口暢朗・服部育男
(九州沖縄農研)

【目的】

耕作放棄地等の未利用地で耕作を開始するに当たっては、利用されなかった期間に繁茂した雑草の防除が重要となる。スーダングラスは生育が早く、雑草との競合に強い。特に夏期の高温下では、速やかに成長するため、粗放的な管理の下でも栽培が可能と考えられる。本試験では未利用地での粗飼料生産を目的に、ヨシ・セイタカアワダチソウ群落の刈跡で、播種時期を変えてスーダングラスを不耕起播種し、生産性について検討したので報告する。

【材料および方法】

本試験は 2007 年に長崎県のヨシ・セイタカアワダチソウ群落優占地で行った。スーダングラス（品種 HSK1）を用い、播種を 4 月 27 日（4 月区）、5 月 21 日（5 月区）、8 月 6 日（8 月区）の 3 回に分け、作溝型不耕起播種機で条間 30cm、播種量 6kg/10a で不耕起播種した。4 月区および 5 月区は 2 回刈り体系とし、収穫調査を 1 番草は 7 月 31 日、2 番草は 9 月 4 日に行った。8 月区は 1 回刈り体系とし、10 月 16 日に調査した。なお、収穫時の生育ステージは、4 月区、5 月播種区では 1・2 番草とも出穂前、8 月区では乳熟期であった。各試験区の面積は 500 m² とし、反復は設けなかった。施肥は土壌診断結果から、ある程度の養分供給が見込まれたため行わなかった。ヨシ・セイタカアワダチソウの刈り払いは、4 月区は播種直前に 1 回、5 月区は 2 回、8 月区は 3 回刈り払い処理を行った。

【結果および考察】

2 回刈り体系では 4 月区よりも 5 月区で収量が高くなった（図 1）。4 月区では播種時の気温が低く、他の試験区よりも初期成長が遅れたことから、雑草の影響を大きく受け、収量が低下したものと考えられた。5 月区は 4 月区と比較して雑草量が大幅に少

なく、雑草を抑圧できると考えられた（図 2）。収量が最も高かったのは 1 回刈り体系の 8 月区であった。播種後の気温が高く、初期成長が速やかで雑草を抑圧できたことに加え（図 2）、収穫時の生育ステージが進行していたことが原因と考えられた。

以上の結果から、スーダングラスを用いることで、多年生雑草の繁茂する未利用地において、粗放的な管理下でも粗飼料生産を行えることが示された。また、雑草を抑圧するには、低温時の播種を避けることと、播種前に 2 回以上の刈払いを行うことが有効なことが示された。

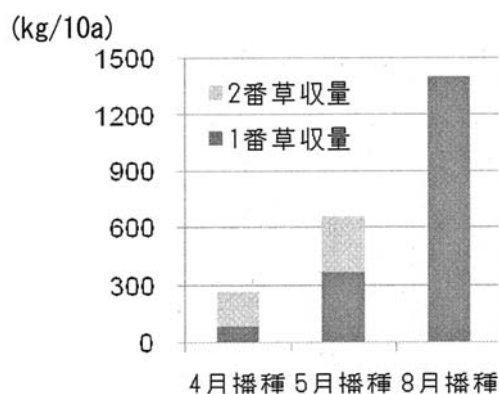


図 1. スーダングラス収量

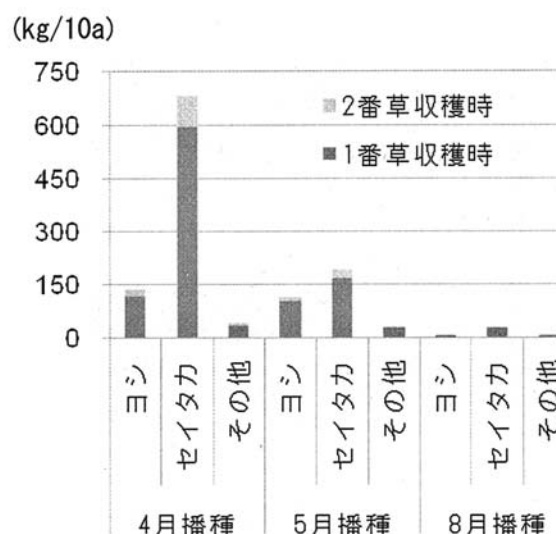


図 2. 収穫時の雑草量